

女巻所

大石寺法則(七)(115)

二巻抄か起稿(七)の山云々

は入りの後、此の時文意神妙の句は余の解るべきものなり 開田抄を講せり

山長頂の書つた。山長から互る余年を経過し

長ふらふたふか。今にその明快を解致のついで

は知る。その如實情の事。その解

釈如付けられ、いふといふと何とぞ

念ふ事には有る。その第一は其の辯義に

長云々天底神妙の語に行きて當つた。その山を完破

た。その山を編集され。その山を完破

一は文意神妙の正体をおりて云々

を令ら^{義に}十義を立てられ、その山は開田抄から

その山を立てられ、その山を次いで

第一に^次文意神妙の三神を撰りてその山を

その山を三神の素かき、その山を

論を^{解者か}おりて、その山を結論の事

その山をその山を、その山を第二の結論

を^{タイモリ}おりて、開田抄の山を編集するなり

その山を^{論は第一}当然結集するなり、その山を

その山を^{第二}結論を^結おりて、その山を

観一観

のこころ

たよつた、今こで三柳の号の大きさに出た

たよつた、巻の編成のりから第三にたり三柳の

おとを信にお出、第何とやわの懐後書信のふ

さめいし、新紙をよ、第五はよの題目は一切の

清洲の振るさか、りるるるるる、第何とやわの

三柳の第何とやわの号をよ、第何とやわの

、清洲とよ、りるるるる、第何とやわの

ま、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

を、三巻のよ、りるるるる、三柳の

申し	分	け	の	た	い	粗	相	の	た	、	象	を	成	造	の	た
に	業	付	の	た	い	粗	相	の	た	、	象	を	成	造	の	た
ま	の	こ	の	う	の	ま	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
は	は	東	東	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河	河
と	う	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
は	は	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北
は	は	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心
当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当	当
れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ	れ
は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は
さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結	結
門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門	門

